

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第8回学協会長会議議事録

開催日時 : 平成25年5月22日(水) 13時00分から14時00分

開催場所 : 幕張メッセ 国際会議場 302号室(千葉県美浜区中瀬2-1)

出席者 : [学協会] 石渡明(日本地質学会・議長)、小林憲正(日本宇宙生物科学会)、千木良雅弘(日本応用地質学会)、西村進(日本温泉科学会)、原田尚美(日本海洋学会)、大湊隆雄(日本火山学会)、松岡篤(形の科学会)、熊木洋太(日本活断層学界)、新野宏(日本気象学会)、村上隆(日本鉱物科学会)、森田喬(日本地図学会)、間嶋隆一(日本古生物学会)、高橋新平(日本沙漠学会)、加藤照之(日本地震学会)、鈴木啓助(日本水文科学会)、谷誠(水文・水資源学会)、中尾正義(日本雪氷学会)、福田洋一(日本測地学会)、今村隆史(大気化学研究会)、伊藤慎(日本堆積学会)、水野清秀(日本第四紀学会)、牧野泰彦(日本地学教育学会)、大平寛人(地学団体研究会)、谷口真人(日本地下水学会)、吉田尚弘(日本地球化学会)、川幡穂高(地球環境史学会)、中村正人(地球電磁気・地球惑星圏学会)、武田一郎(日本地形学連合)、石渡明(日本地質学会)、前杢英明(地理科学学会)、荒井良雄(日本地理学会)、玉川英則(地理情報システム学会)、松田時彦(東京地学協会)、島田周平(東北地理学会)、森也寸志(土壌物理学会)、山崎淳司(日本粘土学会)、石郷岡康史(日本農業気象学会)、茂木透(物理探査学会)、山口靖(日本リモートセンシング学会)、田近英一(日本惑星科学会) [学術会議] 永原裕子、北里洋、中島映至、氷見山幸夫、大久保修平 [連合] 津田敏隆、木村学

議事内容 :

1. 前回議事録確認およびご出席者自己紹介

2. 2013年連合大会に関する報告(津田会長) 資料P.5-6

5月22日現在、本年度の大会は順調に運営されており、国際セッションの数が昨年より増加したこと、また参加者数に関しては、事前登録者数が増加し、総数でも昨年をやや上回る参加者数であることが報告された。

3. 2014年連合大会について(津田会長) 資料P.7

2014年連合大会は会場を現在の幕張メッセからパシフィコ横浜に移すこと、参加料が値上げされることが報告された。

値上げの主な要因については、会場の変更に伴う運営費の上昇、サービスの高度化、連合事務局の増強等の費用であることが説明された。

4. AOGS2014 札幌大会について(津田会長) 資料P.8-9

2014年のAOGS大会について報告がなされた。2014年は連合大会の時期も早まるため、7月末から8月1日にかけてのAOGSとは時期的に適度な間が空き、それにより互いに国際大会として成功しあうことが期待される。

5. ジャーナル関係経過報告(川幡理事) 資料P.10-12、別添資料1、2

新ジャーナルに関する報告があった。報告は以下の通りである。2012年10月2日の前回の第7回学協会長会議において、「日本地球惑星科学連合参加49学会が協力して科学研究費補助金(研究成果公開促進費)に応募する」という決議は、科学研究費補助金採択に大きな役割を果たしたと考えられ、今後とも参加学協会と協力して、新ジャーナル創刊を目指すつもりである。

新ジャーナルの名称は「Progress in Earth and Planetary Science」と決定した。出版開始は、2014年1月を予定している。オープンアクセス電子ジャーナルでの刊行を準備中である。第一次入札を経て、出版社と交渉中である。科学研究費補助金(研究成果公開促進費)が採択されたので、第二次入札をするかもしれない。

6. 2013年IGU京都国際地理学会議に関する報告(日本学術会議 氷見山幹事) 資料P.13

2013年8月4日(日)から8月9日(金)に国際地理学連合(IGU)京都国際地理学会議へ連合がブースを出展することが報告された。IGUは国際的な地理学の大会であるため、ブースを積極的に活用し地球惑星科学を宣伝することが望まれる。

7. 日本学術会議近況(日本学術会議 永原委員長) 別添資料3

日本学術会議の近況について報告があった。最初に学術大型研究計画マスタープランに関して説明があった。マスタープランの公募に対して、本年3月の締め切りまでに16件の計画が提出された。本年の後半に重点計画の選択が行われ、2014年4月に策定が行われる予定である。地球科学の中から少しでも多くの計画が採択されることが望まれる。

続いて、大学教育参照基準作りに関する説明がされた。

また最後に、3.11以降の地球惑星科学のあり方に関して提言をまとめる予定があることが説明された。科学現象の誤差についての社会の適切な理解を求める活動、および、緊急時における情報発信の仕組み作りを含む。6月には案として完成し、パブリックコメントを策定する方針である。

8. 大気水圏科学セクションに関する報告(中島セクションプレジデント)

大気水圏科学セクションへのサブセクション制の導入が提案されていたが、昨年セクション名を変更したことにより、この提案を取り下げることとなり、その旨報告があった。

9. 次期議長に関して

学協会長会議の次期議長は、日本古生物学会の間嶋隆一会長にお願いすることが満場一致で決まった。なお、議長はゆるやかな分野ごとの持ち回りで担当しており、これまで日本地質学会（石渡先生）、日本気象学会（廣田先生）、日本地震学会（平原先生）、日本地理学会（矢ヶ崎先生）にお願いした。

以上